

10月4日の「健全営業推進セミナー2012」には多数のホール関係者の方々にご来場していただき、誠にありがとうございました。

10年目で10回目の節目の年、「日本遊技関連事業協会北海道支部」「札幌方面遊技事業協同組合」「札幌遊技業支配人会」という四団体合同主催では3回目になりましたが、弊社JSSのゴト犯罪対策セミナーのテーマである「ゴト犯罪対策共同戦線」という「共同戦線」が実現されてきていると実感しました。

「共同戦線」の意味を辞書で調べると、「本来、主義や主張の異なる二つ以上の団体などが、当面する共通の目的に対して作る協力体制」となっています。

北海道で開催されたこのセミナーは、まさに「共同戦線」です！これを機にもっといろいろなエリアで、「共同戦線」が行われて、いずれ遊技機メーカーもこの輪に参加していただけることを願っております。セミナー実行委員及び運営をお手伝いされた大勢の方々、本当にお疲れ様でした。ありがとうございます。

「鉄拳2デビル」で全国的に被害続発 狡猾に網をくぐる

さて、今号もパチスロART機を狙ったゴトについてです。被害機種は山佐「パチスロ鉄拳2デビルVer.」で、以前にもこの連載で触れたことのある機種になります。8月後半から全国的に被害が続発しております。しかも一台当たりの被害額が大きいため、厳重警戒が必要な機種になります。今回紹介するゴト手口は8月末

頃に秋田・青森と北上して、9月に北海道に上陸した山佐「パチスロ鉄拳2デビルVer.」でセルゴトを行うゴトグループの行動パターンになります。ちなみにこのゴトグループは、中部地区（愛知及び岐阜）のゴトグループであるというところが当局との情報交換の中で判明しており、当局も広域犯罪グループということで追ってはいるようですが、なかなか狡猾に犯行を繰り返して、当局の網を上手くくぐり抜けている悪質な輩です。

「3人並び」に注意も 犯行時間が短く 危機察知能力も高い

このゴトグループは豊橋ナンバ1の白い車の2台で全国を回っているようですが、店舗の駐車場に駐車することは、ほとんど無く、車両は近隣施設へ駐車して、徒歩で来店したお客様を装っているようです。入店は、バラバラに時間差で別々の出入口から入店して、狙っている「パチスロ鉄拳2デビルVer.」に集まります。

セルを遊技台に挿入する実行役の両隣りには、データランプを見

ゴトに勝つ 高石隆一

悪質化するART機狙い 被害大きく逃げ足は速く

るフリをして手を上げて実行役の
犯行を隠す壁役が左右に座ります。
犯行時は、壁役・実行役・壁役と
いう順に、見慣れないお客様が3
人横並びに座っている状態になっ
ています。

この見慣れないお客様が3人横
並びという状態に要注意して欲し
いのですが、犯行時間が3〜5分
くらいという短い時間なので、こ
の見慣れないお客様が3人横並び
という状態の時間も非常に短く、
尚且つ、見張り役兼キャッチ役が
2〜3人いて、犯行が行われてい
る島にホールスタッフが近づくと
おしほりや遊技説明パンフレット
を要求する等して、犯行現場から
ホールスタッフを遠ざけるように
誘導してくるので、「見慣れない
お客様が3人横並びという状態」
を見つけることは非常に難しいと
言えます。

また、見張り役兼キャッチ役は、
ゴトグループの犯行中の動作に違
和感を感じた背中側でパチスロを
遊技していた一般のお客様が、振
り返って犯行現場をチラ見してい
ると、チラ見しているお客様と犯
行現場の間に立ち塞がって、チラ
見している一般のお客様を無言で

睨みつけて凄んで
威嚇します。

このゴトグルー
プは、インカムを
傍受するほど人員
はいないようですが、
ホールスタッフの
動きやインカム使
用時の顔色を見て、
店舗側に不審な行
動がバレたかを即座に判断して逃
げていきます。当局が目をつけて
マークしているにも関わらず、全
国で犯行を繰り返しているのは、
このゴトグループが危機察知能力
が高いことが1番の理由だと実感
しました。



左上にゲタで隙間

針金状のセルを挿入し 2分後に抜き取り終了

実行役は、遊技台に座ると千円
をメダル貸出機に入れて、ほぼ遊
技する事なくホールのスキを見て、
筐体側面左上側に導入板(ゲタ)を
差し込んで隙間をつくりまします。そ
の隙間から、針金状(棒状)のセル
を挿入して、セルを操作すること
2分くらい、その間、筐体の下パ



写真1 犯行前 ゴト師が3人並んでいる



写真2 犯行の瞬間



写真3 ゴトの影響でパネルが消えた瞬間

ネルが消灯したりするケースも見
られます。約2分後にセルを抜き
取り、導入板も抜き取って、下皿
にあるメダルをそのままにしてす
ぐに退店して行きます。

その後、実行役と入替りで入店
してきた打ち子が、メダルが置き
っぱなしになっているゴト被害台
に座りますが、置きっぱなしのメ
ダルには気がつかないフリをして、
メダル貸出機にお金を入れて遊技
を開始します。

実行役がメダルを置きっぱなし
にするのは、ゴト被害台を他人に
取られるのを防ぐため、打ち子
が置きっぱなしのメダルを使用せ
ずに、新たにお金を使ってメダル
を借りるのは、実行役との関係性
を立証させる証拠を作らないため
と推察されます。

軒並み1万枚以上に そのつえ、途中でやめ 台譲る煩わしさも

打ち子が遊技を始めるとすぐに
デビルラッシュ(A R T)に突入し
て、その後、延々とA R Tが続き
1〜2万枚くらい出されるとい
う状況がほとんどの被害店舗で確認
されており、閉店時になってもA
R Tが終了しなかったとの事例が
あるほど、強烈的な被害が続出し
ています。

このグループの打ち子は、数千
〜1万枚弱くらい出すと途中交換
をすることも確認されており、こ
れは大量に出して店舗側がゴト被
害に気がつくことで、交換拒否さ
れる前にアガリを確保するための



行動とも推察されます。

また、閉店までA R Tを打たずに、A R Tが残ったゴト被害台を周りにいる負けている一般のお客様に譲って、途中で遊技を止めて退店して行くケースも多数確認されておりあります。これは、遠征でゴトを行なっているゴトグループの車両が次の目的地に向かうために、打ち子を迎えに来たので途中で、ゴト被害台を捨てているものと思われる。もちろん、その日のアガリの目標を達成した上での行動でしょうが…。

この一般のお客様へゴト被害を

譲るといふ行為が、紛らわしくてトラブルの原因になるケースもありますので、店舗側は、ゴトグループの一味の打ち子なのか、一般のお客様で善意の第三者なのかの見極めに注意が必要です。必ず、防犯カメラの録画映像を確認してください。

現行犯逮捕は難しい 打ち子牽制の掲示や 所轄との連携も重要

いつもお伝えしていることですが、ゴトグループは法律や風営法

を勉強して、如何にして捕まれないかということの研究してゴトを行なっていることが伺えます。今回お伝えしているゴトグループがまさに、捕まらないための工夫をしている輩だと、拙い私の解説文をここまで読んでいただいた皆様には伝わっていることと思います。

このような輩と対峙するホール側も、ゴトグループ以上に勉強しなければなりません。そのためには、ゴトグループの行動パターンなどを理解し

た上で、奴らの裏をかくことが重要になると思います。

このゴトグループを捕まえるためには、仕込みのゴトグループがセルを使用している瞬間に所轄に現行犯逮捕してもらうことがベストなのですが…。犯行時間が短く、危機察知能力が高いので、現状では残念ながら実行役の現行犯逮捕は難しいと言わざるを得ません。

逮捕は難しいが、被害を防ぐということは可能なので、まずは奴らを儲けさせない！ということが大切だと思います。

考え方は、実行役をどうにかすることが出来なかった場合は、打ち子をどうにかする、という方法を考えるということ。打ち子は、実行役との関連性を証明する行動もとっていないので、ホール側は遊技機の異常を理由に戦うしか方法が残されていません。

ゴト被害に遭う可能性のある遊技機やハウスルール(遊技約款)に、「ゴト犯罪などにより遊技機に異常が発生した場合、出玉の交換にお時間を頂く場合がございます」などと記載し掲示することで、打ち子の出玉交換を牽制することが出来ます。

打ち子に対する具体的な対応方法はケースバイケースなので、一概にここで説明は出来ませんが、所轄とのトラブルを避けるためにも面倒がらずにゴト被害が発生した旨を所轄に報告し、打ち子に対して不正に出された可能性のある出玉の交換を拒否する予定であることを伝えておくことが大切です。

所轄に各ホールがゴト被害の報告をすることにより、点の情報が出た線の情報になり、結果、当局が凶悪犯罪と認定して、広域犯罪として全国指名手配ということになる可能性も出てきます。今回、北海道では各所轄が店舗側の主張を理解して、打ち子の出玉交換を拒否することに關して「民事」ということで対応していただけましたが、昨今の風営法の厳しい状況下では、所轄により解釈が違ってホール側が不利になるケースも想像されますので、対応には十分に注意してください。

「ほうれんそう」であれば
ただちに録画を確認
打ち子監視は意味ない
対応方法でいつもお願いしてい

る「ほうれんそう」についてですが、最近のART機を狙ったゴトの場合、仕込み段階で違和感に気がつくケースと、異常な出玉や打ち子(見慣れないお客様)の挙動不審さに気がつくケースがあります。仕込み段階での「ほうれんそう」の場合、早期の所轄への通報で現行犯逮捕や店舗側の警戒で未遂のうちには追い返すことになるかもしれませんが。しかし、打ち子の段階で「ほうれんそう」があった場合、役職者が第一にすることは、防犯カメラの録画映像を確認することです。

実際にあった残念なケースですが、打ち子の段階で「ほうれんそう」があったので、打ち子にカメラを当ててずーっと様子を伺っていたということがありました。打ち子にカメラを当てて録画しても、ただただARTを消化されて不正に出されるメダルが増えるだけで、被害額が増えるだけです。



写真5 被害台に残されていたゴト痕跡①

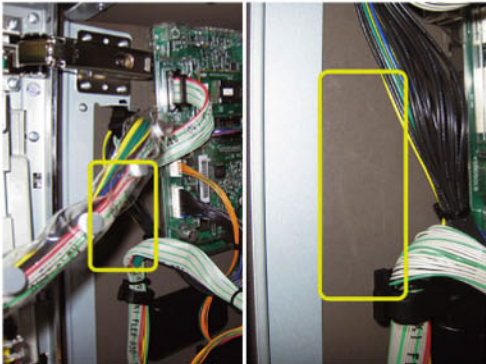


写真6 被害台に残されていたゴト痕跡②



写真7 セル挿入箇所

画映像で、打ち子の直前に打っていた人物の行動に不審なアクションがないか、遊技台が囲まれている状況を確認して、異常があれば所轄などのしかるべき所に連絡し、相談して、受傷事故や事件などにならないように配慮して行動してください。

「北斗の拳」狙いは 精算ボタン付近に セル挿入で気付かず

前号でもお伝えした「パチスロ 北斗の拳・世紀末救世主伝説」のゴト手口がまたまた進化しているとの情報が入ってきました。当初は、携帯電話を使用して何かするとARTに突入するとの第一報が

入ってきて、これは新たな電磁波ゴトなのか、と弊社スタッフの間で激震が走ったのですが、その後、いろいろと調査してみると精算ボタン付近で携帯を使用していたなどという続報から、精算ボタン付近のランプカバーを外して調べてみると、ランプ基板にセルが挿入された際に付いたキズ痕が残されていたのです。

これまでの手口だと、筐体右上や左上からセルを挿入するという不自然な場所に手を当ててセルの操作が必要でしたが、精算ボタン付近のランプカバーの場所だと、スタートレバーが傍にあるので、意識して様子を伺わないと不自然な手の動きに気がつかない可能性が高いと思われます。また、筐体

右下の下皿付近にあるスピーカに穴を開けてセルを挿入するという手口もあるとの情報も入っており、セル挿入箇所(シヨートさせる場所)は、まだまだ増える可能性が出てきております。

今回発覚した新たな手口でも、ゴトに遭った場合の遊技台の挙動に関しては、スピーカーから音が出なくなるとか音が小さくなるという異常が発生したり、枠ランプがART中・通常中ともに全消灯や右半分だけや左半分だけ消灯したりという異常現象が確認されておりますが、ゴト被害に遭った全ての台でこのような異常が発生するとは限りませんので注意が必要です。

違和感を感じたら、まずは防犯カメラの録画映像チェックを忘れずに！

■高石隆一 ■たかいしりゅういち
警備会社の指導員、セキユリティー会社を経て2003年、有限会社ジャパン・セキユリティ・サービスを設立し代表取締役。札幌方面遊技事業協同組合、札幌遊技業協同組合、札幌遊技業支配人会の顧問を務めるかたわら、パチンコ産業のセミナー講師を数多く務める。北海道警察本部の捜査にも協力している。「一期一会」が座右の銘。